

第32回草津市地域公共交通会議 会議録要旨

■開催日時：平成29年2月23日（木） 14：00

■開催場所：草津市役所 8階大会議室

■出欠

出席委員：横幕委員（代理 岩下氏）、隠岐委員（代理 角元氏）、大西委員、山田委員、辰野委員（代理 辻氏）、野村委員、前野委員、大上委員、中村委員、戸田委員、古川委員（代理 山田氏）、山崎委員、芝委員（代理 田中氏）、影山委員（代理 杉江氏）、塚口委員、中島委員、南委員、宮下委員、松下委員、西委員

欠席委員：坂口委員、濱田委員、中島委員、加藤委員、遠塚委員、吉岡委員、寺西委員

事務局：青木副部長、島田課長、林参事、青木主任

傍聴者：なし

1. 開会

【事務局】

皆様、本日は御多忙の中、お集まりいただき誠にありがとうございます。交通政策課の島田でございます。それでは第 32 回地域公共交通会議を開催します。よろしくお願いいたします。

開会にあたりまして、草津市都市計画部副部長の青木より挨拶をさせていただきます。

【青木副部長】

草津市都市計画部の青木でございます。

本日は、公私何かとお忙しいなか、草津市地域公共交通会議に御出席いただき、誠にありがとうございます。

本来ですと、部長の田邊より御挨拶を申し上げるべきところではございますが、本日、田邊は所用により、当会議を欠席させていただいておりますので、僭越ながら私の方から御挨拶をさせていただきます。

当会議につきましては、本日で 32 回目を迎え、委員の皆様方には、毎回慎重なる御審議をしていただき誠にありがとうございます。

さて、当会議において議論いただきました連節バスのジョイントライナーでございますが、昨年 4 月に運行を開始して以来、早や 1 年が経とうとしております。輸送力の高いこの連節バスは、運行後しばらくは立命館大学までの直通便のみで多くの学生を運んでおりましたが、その後、関係機関との協議も重ねながら、少しずつではありますが、途中停車の便も走らせるなど、公共交通の利用促進に向けた展開を進めているところでございます。

本日の会議では、まめバスの運行について、これまで地域とともに検討を重ねてまいり、このたび協議も整いましたので、その内容などを御審議いただきたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

以上、誠に簡単ではございますが、開会の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

次第に従いまして進行させていただきますが、その前に資料の確認をさせていただきますと思います。お手持ちの資料を確認してください。

次第、委員名簿、座席表、資料 1-1 から資料 7 でございます。揃っていますでしょうか。もし資料が抜けていましたら事務局までお申してください。

それでは、会議を進めてまいります。本日の会議は、草津市地域公共交通会議設置要綱第 6 条第 7 項の規定に基づき、公開で始めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

します。

まず、本日の議題に入ります前に事務局より報告がございます。

前回の会議以降の人事異動等により替わられました委員の方につきまして紹介をさせていただきます。

一般社団法人滋賀県バス協会より野村様が委員として御参画していただくこととなりました。今後ともよろしくお願いたします。

本日の委員の御出席は、27名中20名であり、設置要綱第6条第3項に定める過半数以上の出席を得ておりますことから、本会議は成立しておりますことを御報告申し上げます。

それでは、これより委員長に議事の進行をお願いいたします。塚委員長よろしくお願いたします。

【委員長】

それでは次第に従って会議を進めます。

はじめに、報告案件として、「まめバス運行状況について」資料の1-1から3-2を、事務局より説明をお願いします。

2. 報告

(1) まめバス運行状況について

事務局から資料1-1～3-2について説明。

【委員長】

全体としては、おおよそ現状維持ということであるが、増加している路線とやや減少している路線があります。草津駅医大線など利用者が減少している路線について、事務局としてお気づきの点があれば説明をお願いします。

【事務局】

草津駅医大線は、最も利用者の多い路線であり、改善の要望も多数聞いております。通院などの固定客が多いので、定期的に利用されていた方が別の交通手段に切り替えたりされたのではないかと考えております。ここまでの大幅な減少は市としても初めての状況なので、原因を考えていきたいと思っております。

【委員長】

全体としてみれば、順調に推移していると思われるが、減少している路線について何か対策が講じられないか、市民の皆さんとともに考えていく必要があると思います。

3. 議事

(1) まめバス路線改編について

資料4について事務局から説明

【委員長】

名称変更後の新しい名称は示していただけないのでしょうか。

【事務局】

「市民センター」が「まちづくりセンター」に名称が変わります。また、医大線については、地域からの要望で、現在地域と最終確認をしております。

【委員】

新名称はいつから改編するのか。

【事務局】

4月の路線改編のタイミングで行う予定をしております。

【委員】

今初めてお聞きしたが、車内放送の音声装置を変更する場合、通常3か月前に発注し確認を行うので、今からだと5月末になり、4月には間に合わない。

【事務局】

なるべく早々に変更できるようお願いしたいと考えております。また、時期等については、調整させていただきます。

【委員長】

事業者さんと十分に調整していただくようお願いします。

【委員】

常盤学区のまちづくり協議会からこのような提案が上がったことをうれしく思っております。まめバスは市が動かしているが、市民のものであるという共有認識をどう持たせるかが、この10年間の課題であったと思っております。市民の方から自分たちで何とかしようと動きがあったことは、他のまちづくり協議会にも非常に影響があると思うので、このことをもう少しアナウンスしていただく必要があると思います。

どれくらいの日数をかけて協議し、意見の吸い上げをどのようにされたのか。まめバスを市民の足として今後も続けていくにあたり、他のまちづくり協議会に働きかける手法にもつながるのではないのでしょうか。

名称の変更については、車内放送の対応が間に合わないという話であるが、例えば車内で案内や表示をするなど、利用者の利便性を考えて緊急対応など御協力いただければと思います。

【委員長】

まちづくり協議会での議論の経緯をわかる範囲で説明をお願いします。

【事務局】

昨年度、地域のまちづくり協議会から市に提案書が提出され、夏頃から月に1度のペースでまちづくり協議会福祉部会や各町内会長が集まる自治連合会と意見交換を行ってきました。バスの利用者が高齢者であることから買い物や通院に特化した路線にできないか、地域によりルートが長いので2分割してルート短縮してはどうか等の提案がある中、最終的に今回のルートで12月頃に了承を得ました。

利用が少ない地域へのアプローチ手法については、市でも課題だと考えており、利用啓発だけでなく、バスをもっと身近に考えていただける取組について検討しているところであります。

【委員】

まちづくり協議会自体がまだ体制として確立されていない中で、住民の声を吸い上げるひとつの手段として、移動手段は目に見えてわかりやすいので、是非活用していただきたい。その際に、公共交通のあり方を地域から提案できるような形があるといいと思います。

滋賀医大の駐車場が有料になったので、まめバスの利用が増えたと思っていたが、減少している要因として、アナウンスが徹底されていないこともあるのではないのでしょうか。このような住民組織を利用していただくことが今後の課題になると思います。

【委員長】

バス停の名称変更及び実施時期については、事業者と市で細部を詰めていただくという条件を付けて、路線改編についてお諮りしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

＜承認＞

(2) 4 条路線の運行について

資料 5 について大西委員から説明

【委員】

草津駅東口から高樋橋経由で草津車庫への路線については、平成 22 年 11 月から、1 日に往路 3 本と復路 4 本を運行しておりますが、乗車人数が伸びないため、平成 29 年の 4 月から廃止させていただきたいと考えております。昨年末に実施した調査における 5 日間の乗車人数合計でも利用が少なく、休日はほぼ一桁になっております。

草津から青地西経由草津車庫行きに、全便振替を行い、高樋橋経由については廃止したく考えており、今回、お伺いするものであります。

【委員長】

青地経由路線に振り替えるということだが、振替後の運行頻度はどれくらい走ることになるのか。

【委員】

青地経由路線は、現状で片道 12 本ずつ走っておりますが、振替後は片道 15 本ずつの運行になります。

【委員長】

廃止という名称を使っはいるが、近隣路線に振り替えるという提案であります。この件について、御意見があればお願いしたい。

地元の自治会からは何か意見が出ていますか。

【事務局】

2 月 18 日に志津学区で志津の交通を考えるワークショップがあり、その際に事前に役員に話をさせていただきました。地元としては、採算性の問題を抜きに存続してほしいということでありましたが、ワークショップの中で特に存続要望は出ておりませんでした。

【委員】

補足であります。乗車人員調査結果を見ていただくとわかるかと思いますが、利用が多いのは「追分口」であり、新幹線と名神の間のバス停は利用が少なく、距離的にも青地経由路線を利用いただけるのではないかと思います。

【委員】

青地経由路線が増便になるというのは、利用が多く増員すべしと判断されたということでしょうか。また、追分口から笠井町間と山寺から草津車庫間との利用に差があるという理解で良いでしょうか。

【委員】

今回廃止を予定している追分口から笠井町間については、一番多い笠井町でも利用者数は5日間で6人ですが、草津駅東口から馬場までは青地経由便上桐生便が走っており、また、青地西まではロクハ荘便もあり3系統走るなど、利用の多い区間であります。

高樋橋路線については、住民からの要望で市から要請があり、平成22年から6年間運行をしてきたが、思ったような利用がみられないので、今回廃止したいということがあります。

【委員長】

異議がないようなので、4条路線の廃止について承認させていただきます。

<承認>

(3) 地域内フィーダー系統確保維持計画の変更申請について
事務局から資料6について説明

【委員長】

委員の皆様より御意見、御質問がございましたらお願いします。

【委員】

補助金の関係は支局と調整しながら進めていただければと思っています。
参考として示されている、走行距離の変更後の数値はわからないのでしょうか。

【事務局】

今回の資料には間に合わなかったが、乗車時間が 10 分程度短縮されるので、それに伴い走行距離も 1 便あたり 3km ほど減ると考えている。

【委員】

申請期日に遅れないように進めていただくようお願いします。

【委員長】

事務局の提案に御意見がなければ承認させていただきます。

申請の期日に遅れないように、くれぐれもお願いします。

<承認>

4. その他

(1) 草津市地域公共交通網形成計画について

地域未来研究所より資料 7 について説明。

【事務局】

草津市地域公共交通網形成計画の説明について、御質問、御意見等ございますでしょうか。

【委員】

高齢者の事故が多発しており、課題として高齢者の運転免許自主返納の促進と書かれておりますが、それに対する対策が何も書かれていない。代替りの交通手段がないと自動車を手放せないのが、高齢者が免許を返納しやすい環境づくりが先決ではないかと考えるが、計画に盛り込まれていないのではないのでしょうか。

【事務局】

志津学区のワークショップでも免許返納に関する意見を多くいただいたところであり、市としても課題であると思っております。自主返納高齢者に対してバス事業者でも運賃割引支援を行っているが、期間限定となっております。市としても長期的に実施できる支援策について、本協議会で御意見をいただきながら計画に盛り込んでいきたいと考えております。

6月の協議会で計画を策定することについてお知らせいたしましたが、今回の協議会では、その後実施してきた現状整理やニーズ把握から抽出した課題について確認いただき、次回の協議会で具体的な取り組みについて協議いただければと考えております。今回いただいた意見も踏まえながら計画の策定を進めていきたいと考えております。

【委員】

公共交通が発達している地域であれば、問題ないと思うが、公共交通が隔々まで行き渡っていない草津市では難しい問題であると考えます。特に高齢者は通院回数も増え、買い物もままならない状況であるので、通院や買物に重点を置いた移動手段を考えていただければと思います。

【委員】

公共交通網が発達している東京・大阪は飛び抜けて返納割合が多いので、公共交通網の発達がないと難しい問題であると思えます。県内でも自治体によっては、バス回数券を配布するなど、現状の交通網の利用を進めるところもあります。

3月の道路交通法改正で、免許の更新が難しくなることもあり、返納数も増えているということを聞いております。市の財政状況も限りがあり、難しいかと思うが、そういった視点も視野に入れながら支援を検討いただければと思います。

草津市の返納数が増加しているかどうか、警察で情報をお持ちであれば、参考までにお伺いしたいです。

【委員】

法律的には期間終了前の取消という形になるが、自主返納の取消数は最近増えております。正確な数値を持ってきていないので、今日お伝えすることは出来ないが、高齢者の交通事故が問題となっている中で、思い切って運転免許証を取消される方は増えております。

【委員】

県警や県との意見交換会を行った中で、市町単位で返納数がわかれば、市町担当者も対策を行いやすいだろうということで、市町単位で把握することも可能であると聞いているので、そういったことも参考にさせていただければと思います。

【委員】

JR西日本エリアでも高齢者の交通事故が問題だと思っている自治体は多くおられ、免許返納を加速するために、ICカードやバス回数券の配布など、滋賀県内でも湖南市、甲賀市、米原市、長浜市なので実施されています。近隣では長岡京市が手厚く、姫路市は専用のICOCAを配布し、毎年一定額のチャージ券を交付する仕組みを構築されています。

高齢者も安心して住めるまちであるということがまちのブランド力を向上し、選んでいただけるまちになるという発想で施策を打たれている自治体も多いです。草津市は平成42年まで人口が増加するという恵まれた環境であるが、先を見越した取り組みが市民の安全にもつながると思うので、是非検討していただければと思います。

【委員】

アンケート結果の中でタクシー利用というのが上がっているが、公共交通の中でタクシーの位置付けをどうするかということがあると思います。10数年前にも公共交通とは何かという話があり、広く見ようという話がありました。

現実問題として、高齢者や障害者は日常の生活で介護タクシーや普通のタクシーを多く利用されており、子育て世代もゆりかごタクシーや子育てタクシーを使っている人が多いです。また、病院の送迎バスも一人住まいの人にとっては、大きなウエートを占めております。そういった実態をどこかで反映させていただかないと、全体像が実態とあってないのではないかと思うところが多いです。そのあたりも計画のどこかで反映していただきたいです。

こういった計画を策定する際に、いつも違和感を感じるのは、人の生活が見えないことです。移動困難者やバスが走っていないので市内に住んでいながらも移動できない方がいる状況を解消するために、この会議で検討しているので、実態をきちんと把握していただかないと、この計画も現実離れしたものになっていくと危惧している。生活が見えるような計画にしていきたい。

【委員】

県でも湖南6市連携し大津湖南エリア公共交通網形成計画を策定しており、来年度も連携を図りながら、策定に向けて御協力をお願いします。また、来年度はバス交通の社会実験も含めて進めていくのでよろしくお願いします。

1点確認ですが、現状では地域公共交通網再編実施計画までは必要ないかなということであるが、協議を進め計画を策定していく中で、交通事業者も含めて再編実施計画が必要だということになれば、視野に入ってくると考えていいのでしょうか。

【事務局】

おっしゃる通りであり、再編事業は公共交通網を全て見直すようなレベルを対象としており、ハードルが高いと聞いているので、現状を踏まえながら考えて行きたいと思っております。

地域公共交通総合連携計画の進捗状況表をみても、取り組んでいる数が少ないという状況であり、策定しただけで終わりという計画にはしないつもりであります。協議会で意見を伺いながら良い計画をつくっていきたいと考えています。

(2) 草津市コミュニティバス運行事業補助対象事業者の変更について

【委員】

平成29年4月に帝産湖南交通株式会社に(株)帝産観光バス滋賀が合併予定であります。それに伴い、4月以降、まめバスの運行事業者が帝産湖南交通株式会社になりますので、御審議いただきたいと考えております。

【委員】

申請は既に提出されており、実質的に運行スタイルは変わらないので、特に心配していただくことはないと思っている。

【事務局】

承認事項ということで、よろしいでしょうか。

<承認>

【事務局】

次回の会議につきましては、6月ごろを予定しておりますので御出席くださいますようお願いいたします。

これをもちまして、閉会とさせていただきます。

長時間にわたり、慎重な御審議を賜りありがとうございました。